



友われら 76

学友会選挙 相川嵩斗さんが新会長に

12月7日(木)令和6年度新学友会選挙の立会演説会があり、翌8日(金)に投開票が行われました。来年度最上級生となる現2年生から会長に3名、副会長に2名が立候補しました。選挙活動は、学年全体で、朝の呼びかけやポスターづくり、各学級への訪問等を懸命



に行うなど、投票日までたいへん熱心に取り組んでいました。立会演説会での演説内容は、環境整備、あいさつ運動の充実、学年を越えた交流活動、合唱活動の活性化、北中伝統文化の継承、意見箱の設置活用など、北中の学友会活動について真剣に考え抜かれた提案でした。

聴衆に懸命に語りかける姿は、どの演説も心に迫るものがありました。共通する点として、生徒相互の交流活動の充実や北中の伝統の継承と発展を目指すことが述べられており、たいへん頼もしい内容でした。選挙結果は出ましたが、選ばれた相川新会長の下、みなさんで協力して新しい北中を創造していってほしいと思います。

[選挙結果]

学友会長	相川 嵩斗
副会長（男子）	今村 慧祐
副会長（女子）	武川 こころ

※他の役員は新会長が委嘱します。次号でご紹介します。

オープンスクール・授業参観を開催



11月18日(土)在校生の授業参観とオープンスクールを実施しました。参加者は管理上、来年度入学予定の現小6児童と保護者の皆様に加え、在校生の保護者の皆様に限らせていただきました。

午前中は在校生保護者の授業参観、午後は新入生と保護者への学校説明や授業参観、部活動見学を行いました。学校説明のビデオでは本校の歴史や北中の1日の生活の様子、今年度合唱祭の3学年合唱「Yell」をご覧いただきました。授業参観と合わせ本校伝統の合唱や日常生活をご紹介できたと思います。

部活動見学は寒い中で申し訳なかったですが家庭ごとの自由行動でご覧いただきました。気になる部活動をそれぞれのペースで見ていただきました。中には児童や保護者が生徒に質問したり児童が体験したりする場を設けた部活動もありました。来年度の入学を楽しみにしていただけるとありがたいです。



甲府市立北中学校
学校だより NO.8
令和5年12月21日発行
文責 保坂 伸

様々な文化活動で活躍しています

様々な作品応募や文化活動の取組が実施され、表彰式がTVニュースで紹介されるなどめざましい活躍がありました。

○令和5年度「大切な命を守る」全国中学・高校生作文コンクール

警察庁長官官房審議官（犯罪被害者等施策担当）賞
『大切な人と』 2年 岡 美愛

*裏面で紹介しました！

○第14回「いっしょに読もう！新聞コンクール」 全国大会奨励賞 2年 中澤 猛

国際秩序「新興国と連携広島サミットG7首脳声明」
(山梨日日新聞 2023年5月21日付朝刊)

*本校は朝の自主活動の時間を使って新聞感想文に長年取り組んできました。学校も県で1校だけ学校奨励賞を受賞しました！

○中学生の「税についての作文」コンクール

甲府税務署長賞 1年 黒沢恵介「僕と家族と税金」

○第26回科学写真展 中学生の部

山梨日日新聞社長賞 2年 玉井万結

○甲府警察署管内中学生防犯・交通安全弁論大会

奨励賞 2年 長田哲太

○「核兵器廃絶平和都市宣言」事業

第33回平和ポスター展 優秀賞 1年 萩原紗奈
佳作 1年 佐藤優香

○令和5年度JA共済小・中学生第46回交通安全ポスターコンクール

全国共済山梨県本部運営委員会長賞 1年 永井柚衣
佳作 1年 萩原紗奈

○第31回小中学校緑化ポスターコンクール

佳作 1年 永井柚衣
佳作 1年 萩原紗奈

○第73回教育祭県下小中学校図工・美術作品展

特選 3年 清野優奈 3年 奈良村小町

2年 石川菜月 2年 中鳩奏詠

1年 萩原紗奈 1年 芦沢絢香

○令和5年度「家庭の日」「青少年を育む日」

青少年作品展示ポスターの部

銅賞 2年 磯田美怜

○第10回中学生短歌大会「三十一文字こころの

つぶやき」優秀賞 岸田暁輔

オヤジとのたった一日のドライブで

ラジオが歌った壊れかけのRadio



○第47回山梨県アンサンブルコンテスト

銀賞 管楽打楽器八重奏「ハイランド ラプソディー」

J.V.der Roost 作曲

C1. 饗場美月 A.Sax. 武川こころ

T.Sax. 深山篤人 Tp. 保坂真衣

Hr. 深沢瑠夏 Trb. 山村英世

Tub. 益子善 Perc. 降矢志織



↓裏面へ続く

生成AIを学ぶ、生成AIで学ぶ

生成AIとは、文章や画像などさまざまな表現物を生成できる人工知能を指します。本校では、1学期の終業式でお話しした生成AIについて、2学期の教科の授業で扱っています。3年のあるクラスでは国語科の授業で学習しました。先ず教員がChatGPT、GoogleBardといった生成AIを使いその長所・短所を生徒に示しました。次にAIについて書かれた羽生善治さん、松原仁さんの論説文を読み比べて自分の意見を固め、生成AIも含めたデジタル化の是非についてコラム（随筆）にまとめました。その一部を紹介します。



AIが浸透する世の中、私たちの身の回りにはたくさんのAIが進化を続けており、最終的には人類を超える知識を持つようになるだろう。これからは、そんなAIと人間が共存する時代である。だがAIよりも人間のほうが優れている部分もある。それは個性だ。AIに感想文を書かせてみると、どれも似たり寄ったりの内容だった。それに比べ、人間が書いた感想文はそれぞれによって全く違うものだった。

このように人間の個性はそれぞれに違いがあり、その点ではAIよりも優れているといえる。だから発想力を伴う人間にしかできない仕事を増やし、作業の速いAIには反復作業を任せるのが良いと思う。これからの時代の人間は、発想力を磨き、人間にしかない個性を發揮することを目指すべきだ、と私は思う。（3-1 志村美月）

2年国語科では話し合いの授業で「部活動は廃止すべきかどうか」という論題を設定。生成AIの特徴について学んだ後、議論を始める前にChatGPTにメリット、デメリットについて尋ね、議論をする上でポイントになりそうな項目（論点）を絞り込む、という作業を行いました。メリットは「学業に集中」「成績向上」など、デメリットは「運動不足」「社交性の低下」などが提示されました。

複雑な課題についての議論では大人でも論点がずれてしまうことがありますので、広い範囲から情報収集するAIの特徴を生かした効果的な学習になっていました。

1年生も技術科の授業で、身近な生活でICTをどう生かすかについて議論しました。例えば「部室の鍵を自動顔認証にして鍵の開け閉めを効率的にしたらどうか」などユニークなアイディアがたくさん出されていました。

生成AIも含め、AIとの付き合い方は、これらの社会を生きる中学生にとって学ぶ必要があることだと考えています。今後も研究を深めていきたいと思います。

県庁（県警本部）で表彰されTVニュースでも紹介されました！

<作品紹介>

「大切な命を守る」全国中学・高校生作文コンクール
警察庁長官官房審議官（犯罪被害者等施策担当）賞受賞

『大切な人と』

山梨県甲府市立北中学校 2年 岡 美愛

「本当に許せない」これは、実際に家族が交通事故にあった方が私たちに発した言葉です。今も私は、この涙ながらに力強く発せられた言葉が印象深く心に響きます。自分の命の重さを知り、これから生き方について考えさせられたあの時は、自分にとって大切な時間です。

学校で命の授業が開かれ、交通事故講話を聞きました。息子さんが交通事故にあったときのことを息子さんの母親の方が私たちにお話してくださいました。亡くなる直前の様子、事故が起った後のことなど。息子さんことを語っているときは後悔や苦しみで涙を流していましたが、事故のことを語るときは我慢できない加害者に対する怒りや憎しみに変わっていました。「本当に許せない」その言葉が私の胸に残りました。息子さんは、飲酒運転によるトラックに突然に信号無視をされ事故にあい、数メートル先まで引きずられたそうです。お酒を飲んでいるにもかかわらず運転しようとする軽率な行動が罪のない何人の命を奪ってきたんだと思いました。飲酒運転により、どのくらいの人が亡くなっているのか気になったので調べてみたところ飲酒なしの死亡事故割合と比べて約8倍死亡割合が高いことがわかりました。これは、乗り物が加害者となる事故が、どれだけ恐ろしいことなのかを表しています。ここまで飲酒運転が危険なのに後が絶えないことを疑問に思いました。でも、私も調べないと分からなかつたように、事故さえ起こさなければいいという考えの人が多いからだと思います。また、飲酒をしてから無意識のうちにハンドルを握っているということも有り得ると思います。こうした考え方や行動をなくすために、ハンドルキーパーを決めて送り届けをしてもらったり家族や知人に飲酒の注意を日頃から喚起してもらったりするなど周りの人の協力が必要なのだと思います。また、それでも心配な人やそんなことをしなくても大丈夫という考え方のある人は自分を疑うことが大切です。運転支援システムがある事故を防いでくれる車に乗ることを推進します。

少ししか飲んでいないから、酔っていないから、いつもの道だから、事故を起こすわけないから。

「自分は大丈夫」という甘い考え方で行った運転が今までたくさんの残酷な結果を生み出してきたこと、事故を起こして後悔した時には遅いこと。飲酒をする前に少し待って考えてみて欲しいと思います。その一瞬で罪のない命が奪われ、家族を一生苦しめる事故が防げるかもしれません。交通講話を聞いて、私は、今も苦しんでいる人がいることを知りました。一人ひとりの命を大切にし支えてくれる人がいること、命は自分一人のものじゃないことを心にとめて限りある命を一歩ずつ慎重に大切な人と歩んでいきたいと思います。



より詳しい内容は、北中学校HPからお知らせしています。このQRコードからご覧になれますのでぜひご覧ください。